

近畿は医療崩壊 大阪は「一刻争う」

いのち救う支援を

近畿選出議員が厚労省に要請

緊急事態宣言が延長されましたが、コロナ新規感染者の増加が止まらず、関西圏は入院できる感染者の割合が2割を切るなど医療崩壊の状態。とりわけ大阪は、重症者が重症病床数を超え自宅で亡くなる人が相次ぐなど「災害レベル」です。大阪について近畿選出の国会議員7氏は7日、厚生労働省に全国レベルの広域連携で支援し、命を救う具体的な取り組みを求めました。



要請は①大阪での医療提供体制の詳細な把握②医師などの派遣③他自治体への患者搬送のための広域連携への後押し④保健所機能のバックアップ⑤自宅療養中の患者を訪問・診察する際の診療報酬加算⑥すべての医療従事者へのワクチン接種を早急に⑦PCRの社会的検査、モニタリング検査を圧倒的に拡大する一の7点。「一刻を争うという認識で取り組んでほしい」と求めました。要請は穀田恵二、清水忠史両衆院議員、山下芳生参院議員が行い(写真)、市田忠義、倉林明子、井上哲士、大門実紀史各参院議員が連名しました。

組んでほしい」と求めました。要請は穀田恵二、清水忠史両衆院議員、山下芳生参院議員が行い(写真)、市田忠義、倉林明子、井上哲士、大門実紀史各参院議員が連名しました。

変異株猛威 子どもに感染拡大

20人学級に前進を

宮本たけし前衆院議員(近畿比例、大阪5区)は8日、滋賀入りし、党女性後援会のつどい、教員との懇談で「ポストコロナに子どもと学生に希望を届ける宮本プラン」の内容を語りました。

宮本氏は文部科学委員を務めた経験を生かし昨年7月に同プランを発表、各界との懇談を重ねてきました。プランは①教職員を思い切って増やし、20人程度の授業ができるようにする②大学・専門学校の学費半減一が柱です。



20人が参加した女性後援会のつどい(写真)で宮本氏は、「コロナによる困難を乗り越えたあと新しい教育をプレゼントしたいと作成した」と紹介。コロナの下での少人数分散登校はコロナ対策に有効であることが示されたとし、コロナ変異株が子どもに感染を広げているもとで、35人学級から20人学級に進むべきことを強調しました。そのうえで宮本氏は「声を上げれば政治は動く。教育要求実現には野党連合政権の実現が近道。総選挙での躍進を」と訴えました。つどいでは、滋賀での少人数学級の状況について、きのせ明子県議が報告しました。

教員との懇談では「給食で黙食が求められているが、マスクを外し最も解放感があるのが給食時間。話すなど言うかどうか迷う」「コロナ世代、モチベーションが上がらない世代と言われたいないようにしてあげたい」などコロナ禍での教育現場の苦労と思いが次々語られました。

宮本氏は「コロナは教育とは何かを考えさせる契機になっている」として、今の時代の教師の仕事の大切さを語り、励ましました。

21近畿ブロック事務所ニュース

Tel06(6975)9111 Fax06(6975)9115

【府県・地区・地方議員御中・部内資料】

No. 25(2021.5.9)